

畿央大

人間環境デザイン学科

池田一貴さん



奈良県広陵町に二

〇〇三年に開学した

畿央大に通っています。高校の家庭科教諭を目指し、建築・インテリア・アパレルを学ぶことができた。奈良は大和綿をはじめ靴下などにも有名で、そのようなアパレルに興味を持ち、学びを深めています。

所属ゼミでは繊維を素材にしたモノづくりを研究しています。先輩方は蚕を卵から育て、糸を引

SDGs 国連が2030年までに解決を目指す持続可能な開発目標。本稿に書かれた目標は「人々があらゆる場所において、持続可能な開発及び自然と調和したライフスタイルに関する情報と意識を持つようになる」。

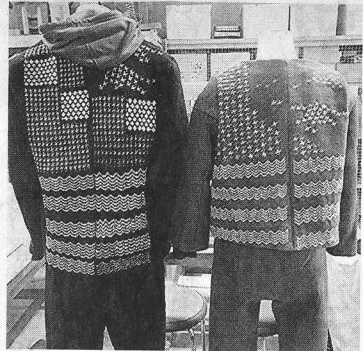


先輩方は大学の近隣の畑で収穫した綿から紡いだ糸を藍染めし、織り、東北に伝わる刺し子「津軽こぎん刺し」を全面に施したスーツを制作し、第七回全国コットンサミットの喜多方会場で発表しま

地域生かした着物を制作

き、染め、織り、着物を制作したり、苧麻オシロイを刈り取り糸にしてジャケットにしたりします。中には羊毛の毛でカーペットを制作する方もいます。

私が選んだ素材は綿です。綿はTシャツやタオルなど最も身近な素材ですが生産過程など全く知りませんでした。栽培方法は国内最大規模となる八杵の綿畑を保有する靴下メーカー「タビオ」（本社・大阪市）の島田淳志さんから、糸の紡ぎ方は先輩方から、それぞれ伝授していただきました。



刺し子を使ったスーツ

した。

私は今年、卒業研究で着物の制作にチャレンジします。私は小さい頃から祖母の着物姿が好きでした。先輩方が昨年のコットンサミットで出会った福島県喜多方市の大竹典和さんの和綿を使わせてもらい、会津木綿特有の縞しまを取り入れたデザインの着物を制作しました。

コットンサミットの一貫で開催されたツアーでは、ふくしまオーガニックコットンプロジェクトが被災地の復興で取り組んでいる、いわき市内の綿畑を見ることができました。

また綿に関わるたくさんの方々とお話をさせていただくことができ、貴重な時間を過ごすことができました。

※この連載は、NPO法人JKSKによる『結結プロジェクト』の協力を得ています。